

# はむら市議会だより

No. 85

(通巻No. 194)

平成22年8月15日発行

羽村市議会

〒205-8601

東京都羽村市

緑ヶ丘5丁目2番地1

☎ 042(555)1111

ホームページアドレス

<http://www.city.hamura.tokyo.jp/>



暑くても元気に水遊び (多摩川)

## はむらで見られる 野鳥



### スズメ (雀)

昔から人間の暮らしに深く関わってきた野鳥で、民話、童謡、俳句に登場、家紋にも使われています。近年個体数が減ってきたのは、環境、生活様式、農業形態など人間の活動に影響されているのではといわれています。写真のように巣立ち雛が羽をばたばたさせて餌をねだる仕草は、他の小鳥にも見られます。

#### 第3回(6月)定例会

|         |                    |       |
|---------|--------------------|-------|
| 一般質問    | 市政を問う(15人の議員が一般質問) | 2ページ  |
| 議会の活動報告 |                    | 12ページ |
| 市長提出議案  | 15件の議案を審議          | 14ページ |
| 議員提出議案  | 1件の議案を審議           | 14ページ |
| 議決結果一覧  |                    | 15ページ |

#### 《編集委員》

露木 諒一 川崎 明夫  
鈴木 拓也 大塚あかね  
橋本 弘山 山崎 陽一  
小宮 國暉

(山崎記)

羽村の近・現代史をテーマに議員研修が開かれた。講師は前企画部長で郷土博物館の下田和敏さん。  
純農村だった羽村は、玉川上水工事や堰の管理、補修など、公共事業の入札で栄えたという。この企業家的活動が「進取の気性」、言わば積極的、一面では投機的ともいえる羽村人気質を形成。明治・大正期の養蚕業繁栄は世界大恐慌で壊滅した。今の経済危機はその再来とも言えそう。  
現職議員18人中、羽村育ちは7人。市民構成も似た比率だ。住民融合の「まちおこし」にとって伝統文化や先人の知恵は玉手箱だ。さあ、みんな「羽村の宝物探し」を始めよう。

#### 編集後記



# 市政を問う

平成22年第3回羽村市議会(定例会)を、6月1日から18日までの18日間の会期で開催しました。

開会初日には、市長から、市政についての所信表明がありました。6月1日、2日、3日には、15人の議員が一般質問を行い、市長の考えを問いました。

※質問・答弁は、内容を要約して掲載しています。

| 議員名   | 頁 | 議員名   | 頁  |
|-------|---|-------|----|
| 大塚あかね | 2 | 石居 尚郎 | 8  |
| 濱中 俊男 | 2 | 市川 英子 | 8  |
| 小宮 國暉 | 4 | 門間 淑子 | 9  |
| 橋本 弘山 | 4 | 馳平 耕三 | 10 |
| 西川美佐保 | 5 | 中根 康雄 | 10 |
| 鈴木 拓也 | 6 | 水野 義裕 | 11 |
| 露木 諒一 | 6 | 山崎 陽一 | 12 |
| 中原 雅之 | 7 |       |    |

おおつか  
大塚 あかね 議員  
(民主党)



◇WLBの視点から男女共同参画社会の推進とWLBの推進について  
◇小中一貫教育について

ワーク・ライフ・バランスの視点から

男女共同参画社会の推進とワーク・ライフ・バランスの推進について伺う

「仕事と生活の調和」が実現した社会を構築するためには男女共同参画

社会の推進も欠かせない。

質問 「はむら男女共同参画推進プラン進捗状況報告書(平成20年度)」が公表されたが、DV対策基本計画策定についてふれていないのはなぜか。



はまなか としお  
濱中 俊男 議員  
(新政会市民クラブ)



◇羽村市民の連携の醸成について

羽村市民の連携の醸成について

「心のほころび」を危惧する声が聞かれた。付き合いを持とうとしない市民も増えているように見受けられる。市民が、この郷土「羽村」を愛し、伝統と

文化を尊重し、自他共に発展していくように、以下伺う。

質問 30年からの、町内会・自治会の加入率の推移は。

市長 昭和55年度85%、平成2年度71



市長 計画は策定せず、プランにある関連施策に位置づけたためである。

質問 女性の健康を守る観点から「不育症」についての対策は図られるのか。  
市長 不育症の判断と治療が可能な専門的医療機関や、普及啓発に取り組んでいるNPO法人等の情報を紹介するなどの対応を図っていく。

質問 市役所の取り組みについて伺う。  
職場の働き方の改革には管理職自身の働き方の見直しも必要である。管理職の方のワーク・ライフ・バランスは図られているか。

市長 管理職自ら率先して取り組んでいるが、有給休暇取得率は低いことから、改めて目標を設定し、ワーク・ライフ・バランスの推進に努めていく。

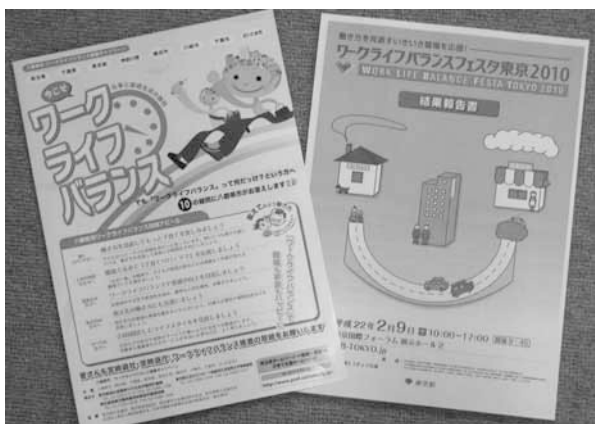
小中一貫教育について

質問 学区変更に伴い生徒数が増えた学区の施設整備や人的補充は。

教育長 平成24年度に全学年が影響を受け、羽村二中は18クラスになる。普通教室への転用可能教室が7室あり、教員は都教委の定数配当基準に基づき配置されるので、問題は生じない。  
質問 小中一貫教育に「ESD」の視点を取り入れてはどうか。

教育長 持続可能な社会を実現するために、文化や伝統を守りつつ、その社会を担う人を育てるための羽村学、人間学への取り組みが該当すると考える。

※不育症：妊娠が満期に至るまでに流産、早産を繰り返してしまいう症例  
※ESD：「持続可能な開発のための教育」の略。持続可能な社会の実現を目指し、一人一人が世界の人々と将来世代、環境、経済、文化との関係性の中で生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育むための教育。日本政府の提案により、2005年から国連のキャンペーンが始まっている。



▲東京都のワークライフバランスに関するチラシ等

%、平成12年度57%、平成22年度45%である。

質問 加入率向上のための市の努力は。  
市長 広報紙やテレビはむら、夏まつりや産業祭などでPRと加入促進を行っている。

質問 子育て家庭を孤立させないような方策は。

市長 子ども家庭支援センターが中心となり、関係機関と連携し、子育て中の親子の精神安定を図り、支援の必要な家庭を早期発見し、家庭訪問などの対応につなげていく。

質問 羽村市の歴史教育について、市民向けにどのように行っているか。

教育長 羽村の歴史という地域資源を生かし、郷土博物館・図書館・ゆとろぎで歴史に関する市民の学習の場と機会の提供を行っている。

質問 歴史書発刊について、「羽村市史」発刊の考えは。

教育長 戦後史を含めた羽村の歴史を羽村市史として残していくことは必要

と考えている。

本年度、郷土博物館に、資料を分析し歴史を編んでいく人材育成として、(仮称)登録郷土研究員制度の創設に向けた準備を進めている。

質問 市民の連携の醸成について、どう考えているか。

市長 「市民活動・ボランティアセンターはむら」を中心に、さまざまな市民活動を通じて、町内会・自治会の活動を支援し、市民連携の醸成を図っている。



▲郷土博物館